

# 日本地衣学会

# No.54

# ニュースレター

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次	会員通信	189
	日光東照宮の地衣文様 / 安斉唯夫	189
	会務報告	189
	第14回青空地衣教室 (佐賀県黒髪山) 報告 / 田中慶太	191
	日本地衣学会2005年度事業計画 / 庶務幹事	192

## 会員通信 From Members

### 日光東照宮の地衣文様

世界遺産の耐震技術を紹介したテレビ番組を見ていた時のこと、「見ざる言わざる聞かざる」で良く知られる「三猿」の彫り物に地衣類らしい絵が描かれていることに気づいた。それ以来、どうしても自分の目で確かめたいという思いにとらわれた。しかし、そこは極彩色の世界、日光東照宮。建築家ブルーノ・タウトが「珍奇な骨董品」と酷評した地である。小学校、中学校と2回の修学旅行で訪れた時の記憶も、ブルーノ・タウトに近い印象が刻み込まれてしまっている。この日訪れた私も、「三猿」の地衣を見に来たんだ、厚化粧の陽明門に興味はない、という気持ちだった。広

い表参道をゆるゆると登ってゆくと、気が鎮まるどころか次第に気が高ぶってくる。三猿をみたら早く引き返そう、などと考えながら歩き目的地の神廨（しんきゅう）



図 1. 神廨の三猿に描かれた地衣文様。



図2. 地衣文様「シロブチゴケ」(陽明門)。

に着く。

小さな建物である。しかし、その壁には精緻な彫り物が施され、猿の一生を描くなかで人の生き方を物語る絵巻物のような作品として仕上がっている。ようやくテレビで見た地衣を見つけることができた(図1)。写真を撮りながら観察する。葉状地衣を模した絵は、松の太い幹肌や枝に多数描かれている。やや明るい青で塗られた丸い形は白い点々で縁取られ、茶色の幹肌にくっきりと浮かび上がっている。青い色調が菌類をおもわせ、また、一つ一つがくっきりと縁取られている様子が蘚苔類でなく地衣類であることを物語っている。単独で、あるいは隣り合って描かれているが、どれも類円形を見せ、不定型な広がりをもせるものはない。前号のニュースレター「自然をめぐる千年の旅」で勝手に私が名付けた架空の地衣類「シロブチゴケ」である。その形は約束事のような描き方で、文様と化している。しかも、その全ては木彫の上に彩色された文様であり、立体的に彫りだされたものは無い。図1の中で、車輪のように彫られた緑の文様は、地衣類ではなく松葉である。沢山描かれていることで嬉しくなった私は、ひょっとすると陽明門でも見つかるかもしれないと思い、意に反していつの間にか東照宮の奥に引き込まれていった。

石段を登ると、巨大な陽明門が圧倒するようにそびえている。なんとという装飾であろうか。徳川家という一族、その時代がここに具現しているのだろう。陽明門と左右に延びる回廊の壁には龍や鳥獣、花木が幾重にも彫り込まれている。膨大な彫刻である。そして白く縁取られた青い地衣類も至る所に描きこまれているのである(図

2)。この「シロブチゴケ」は、さらに鳴龍のある本地堂の外壁にもみることができる。

東照宮の装飾文様についてはいくつかの書籍が刊行されているが、その図版をみると地衣類が描かれている基物は松だけでなく、枇杷、梅、椿、栗、柿、梨、桃、蜜柑の木々に及び、波間の岩上にも描かれている。全てが共通したデザインの文様1種である。それでは、彫り込まれた地衣は無いのだろうか。彩色されただけの絵が全てでは、どうしても物足りない。意地でも探してやる、と想いつつ昭和55年に刊行された「日光東照宮の文様」(なんと定価7万8千円限定780部)を図書館で開いていると、桐の板に彫られた鳳凰の彫刻に地衣類とおもわれる小品が鋸で多数固定されており、また、梅の木が彫り込まれた柱には幹肌に巨大な裂片をもつ地衣類らしき小品が彫り込まれていることを発見した。これらは、彩色だけの「シロブチゴケ」とは明らかに異なる文様であり、形も円形にとどまらない。ちょうどウメノキゴケのような大きな丸い裂片であるが、一つのウメノキゴケというよりは、中心部から新たな裂片が成長して重なり合うようになった親子一体型ウメノキゴケのように見える。私は、この「桐鳳凰文壁面彫刻」や「梅龍文唐木象嵌柱」の作者は、陽明門等の外壁の作者とは異なると考えている。

東照宮の膨大な彫刻や絵画は狩野探幽の作といわれ、その制作年代は寛永11年(1634)から13年とされている。探幽は陽明門の装飾を自らの手で担う一方で、一派の絵師や大工を指揮して制作にあたったという。徳川家から受け取った画料は千両箱10箱に相当するという記録も残り、室町時代から御用絵師として続いた狩野派は江戸時代には陽明門の華やかさほどにも繁栄したことだろう。前回のニュースレターで紹介した「高雄観楓図屏風(狩野秀頼、室町~桃山時代十六世紀)」に描かれた千を超える「シロブチゴケ」は狩野派の中で受け継がれ、探幽指揮のもとで再びおびたしい数の地衣類文様として東照宮によみがえった。しかし、「シロブチゴケ」を描き続けた狩野派の絵師達は、本来の地衣類の姿を忘れ、庭のウメノキゴケに気づくことも無くなってしまった。そして親子一体型ウメノキゴケの木彫士は、栄華を誇る狩野派一族の指揮の元で、密かにリアルな地衣を彫り込んだのだろう。

やたらと「シロブチゴケ」を描く込むことが伝統とな

ってしまった狩野派には寂しさも覚えるが、点苔とよばれるこうした地衣文様は狩野派より遅れて現れた琳派の俵屋宗達や尾形光琳、また狩野派より前の土佐派の作品にも描かれている。これらの作品には「シロブチゴケ」に類似した点苔もしばしば描かれているが、より変化に

富んだ形態や簡略化前の地衣類もみることができる。また、近代日本画の下村観山のように妙にリアルな地衣類を描く画家も現れ、興味は尽きないのである。

(安齊唯夫：ゼルグプランニング)

## 会務報告 Report of the JSL Activities

### 第 14 回青空地衣教室（佐賀県黒髪山）報告

4月30日、九州地区での本年度第1回目の観察会として、第14回青空地衣教室を開催したので、その結果を報告します。

\* \* \*

開催日：2005年4月30日

開催場所：佐賀県杵島郡山内町黒髪山

参加者：5名

\* \* \*

4月30日、佐賀県の黒髪山へ再び訪れる機会に恵まれました。メンバーは山本先生、久留米高専の中嶋先生が2名の生徒さんを連れてこられました。前日は太宰府天満宮で地衣類の観察を行い、本州では珍しくないが、

九州ではあまり見られないキウメノキゴケを観察することができました。黒髪山での観察は今回で3回目を数えます。12時集合予定という事でしたが、ゴールデンウィーク中ということで有田の陶器市の混雑を心配した山本先生一行はかなり早く到着してしまったようです。午前中から観察しておられました。今回は頂上まで登るのではなく、下の本堂付近の地衣類をゆっくりと時間をかけながら観察する事ができました。本堂付近には1本のサクラの木があります。その木にはウメノキゴケが着生しており、訪れる度ごとにその成長ぶりを観察してきました。今回も無事着生しているのか心配していたのですが、一回り大きくなったウメノキゴケを見る事



図 1. 黒髪山の西光密寺境内サクラに着生するウメノキゴケ。中央の白枠内は2年前の写真枠（横約5cm）、白抜き部分は2年前のウメノキゴケ。（写真・説明文とも：山本好和）

ができました。最初に見たときは本当に1 cmくらいしかなかったウメノキゴケが年ごとにだんだんと大きくなっている事がよくわかります(図1)。前回までの黒髪山産の地衣類のデータに今回も数種の地衣類を追加する事ができました。やや天気がぐずつきそうだったので早めの解散となりました。

また、今回山本先生より長崎県と福岡県の地衣類のデータをいただく事ができ、大変ありがたく感じました。これからの調査にぜひ生かして、少しでも地域の地衣類のフロアの解析に役に立てていきたいと思いました。

(田中慶太：西海市立崎戸中学校、  
長崎大学大学院教育学研究科専攻)

## 日本地衣学会 2005 年度事業計画

日本地衣学会は設立4年目に入りました。大会や観察会も定期的に予定され、ワークショップや青空教室などの事業も継続的に行われるようになりました。いずれの行事も盛会でこれも会員の皆様のご協力の賜物です。会員数も増加し設立時の倍になりました。また、会員の興味ある分野も設立時に想定したものよりも随分広がり、今後の発展が楽しみです。

さて、今年度の事業計画を第1回メール評議員会に上程し、議決頂きましたので、会員の皆様にお知らせします。事業の中で不確定の部分がありますが、決まり次第順次メールなどでお知らせする予定です。

\* \* \*

### 事業計画

#### 【基本目標】

学会としての体制継続整備

#### 【行動目標】

- ① 細則・内規の追加整備(英文規約、総会運営、編集委員会運営、観察会運営など)
- ② 主要業務推進体制の確立(大会・シンポジウム、観察会、青空教室、学会誌、HP)
- ③ 目標会員数  
2005年3月31日現在 142名(一般99、学生14、  
海外一般14、海外学生0、団体4、名誉11)  
2005年12月31日目標 151名(一般100、学生17、

海外一般15、海外学生2、団体4、名誉14)

#### 【事業計画】

- ① 主催大会、シンポジウム、プロジェクト等
    - ・日本地衣学会第4回大会・シンポジウム(広島大学、7/9-10、委員長：出口博則)
    - ・第4回観察会(栃木県、未定、世話人：富永孝昭)
    - ・日本の地衣フロア解明プロジェクト(「日本の地衣フロア解明プロジェクト」委員会)
  - ② 支援事業
    - ・東アジア地衣シンポジウム(ソウル大学、8月下旬)
  - ③ 役員改選
  - ④ 印刷物発行等広報活動(編集委員会等)
    - ・学会誌「Lichenology」4巻1号発行(6/下旬)、4巻2号発行(11/下旬)
    - ・日本地衣学会 Newsletter 発行(随時)
    - ・大会予告：生物科学ニュースなど
    - ・IAL News Letter 投稿(大会予告、大会報告)
  - ⑤ インターネット関連(HP運営委員会制作・運営)
    - ・HPの内容改善
  - ⑥ 地域事業(地域活性化委員会主催行事)
    - ・青空地衣教室
    - ・ワークショップ
- 分類ワークショップ(Physciaceae, 3/13-14, 高知大)  
秋田ワークショップ(第3回, 8/26-9/1, 秋田県大)

(山本好和：庶務幹事)

### ●複写される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌42号148ページに。

### ●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see No. 42, p. 148 of this publication.

### 日本地衣学会ニュースレター 54号

発行日：2005年6月10日

編集：原田浩・岡本達哉・木下靖浩・棚橋孝雄  
発行者・発行所：日本地衣学会

〒010-0195 秋田市下新城中野

秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科内